

# 月刊ウィーン

## GEKKAN-WIEN

現地オリジナル取材と編集で  
ウィーンを伝える月刊情報紙

創刊 20 年目に突入

創刊 1989 年 No.239

# 2009年5月号



Johannes Vermeer van Delft 1632-1675 Die Malkunst um 1665/1666 © Wien, Kunsthistorisches Museum

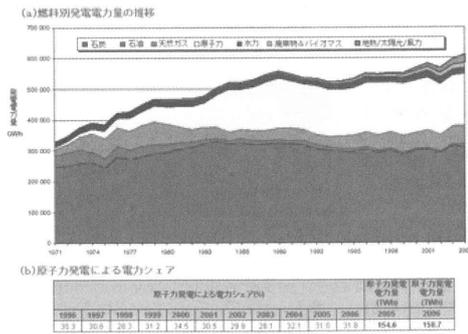


図1 ドイツにおける原子力発電の位置づけ  
【出所】IEA Energy Statistics Germany (Evolution of Electricity Generation by Fuel from 1971 to 2004).  
[http://www.iea.org/textbase/etats/pdf\\_graphs/DEELEC.pdf](http://www.iea.org/textbase/etats/pdf_graphs/DEELEC.pdf)  
(World Nuclear Association) <http://www.world-nuclear.org/info/nahare.html>

七〇年代半ばから八〇年代初期の社会民主党 (SPD) と自由民主党 (FDP) の連立政権は、オイルショックを契機に、石油の代替エネルギーとして原子力を積極的に推進し、野党のキリスト教民主同盟・社会同盟 (CDU/CSU) も含め、超党間の合意があった。しかし、七〇年代初頭から反原子力運動が高まり、七九年の米国内務省の国民の不安を背景に、反原子力政策を掲げる緑の党が設立された。さらに、八六年のソ連チェルノブイリ原子力発電所事故時にはマスコミがセンセーショナルに報道し続けて国民の不安感を煽ったこともあり、SPDは反原子力に政策を転じた。一九九八年に発足したSPDと緑の党の連立であるシュレダー政権は、二〇〇〇年、連邦政府と電力業界が原子力発電所を段階的に廃止する脱原子力協定に合意し、

東西統一で欧州最大国となったドイツは、十七基の発電用原子炉が運転中であり、二千三百七十万キロワットの出力容量を有している。これは、米、仏、日、ロシアに次ぐ世界第五位の規模である。また、総発電電力量に占める原子力の割合は、約二八%と我が国と同程度である (二〇〇七年末現在)。原子力を含むエネルギー自給率は、日本の約二〇%に対し、ドイツが約四〇%と高いのは、総発電電力量の約半分を占める石炭が欧州随一、国内で豊富に産出されるためである。これに天然ガスや石油も含めると、化石燃料による発電は約六〇%を占める。ドイツの原子力開発は、我が国と同様、平和目的に限定して開始された。六二年に最初の発電用原子炉が完成し、七〇年から七五年にかけては年平均三基の発電用原子炉の発注があり、七〇年代中頃から八〇年代末にかけて次々と運転が開始された。しかし、八四年を最後に新規発注は現在までない。

二〇〇二年には原子力法を改正した。これに沿ってこれまで二基の原子力発電所が廃止された。〇五年に発足したCDU-CSUとSPDの大連立メルケル政権は、前政権の脱原子力政策を現在まで継続している。脱原子力政策では、原子力発電所が送電開始後平均で三年分に相当する電力を発電した時点で運転を終了させることなどが骨子である。二〇三〇年に向け石炭は微増、天然ガスが増加

する一方、原子力は減少して二〇二〇年にはゼロにしようとしている。これを補う形で風力を中心とした再生可能エネルギーを増やすとして

いる。現在でもドイツの風力発電の割合は他のどの国よりも高く、全発電電力量の約五%を占めているが、原子力分を補うのが簡単ではないことは広く認識されている。メルケル政権は、連立相手のSPDへの遠慮から脱原子力政策の見直しに着手できなかったが、同首相が率いるCDUは、本年九月の総選挙に向け、見直す方針を打ち出している。天然ガスの四〇%をロシアから輸入していることから、ウクライナへのガス供給停止などエネルギーセキュリティに対する国民の関心の高まり、欧州最高レベルの電力料金に加え、風力発電による騒音やバードストライクの問題、石炭中心の化石燃料への依存が地球温暖化等の難問を抱えていること

などがその背景にある。〇八年に実施されたアンケート調査によれば、二〇一二年以降も原子力発電所の運転を継続することに四九%が賛成、四四%が反対、七%が保留と、州レベルでは、SPDに代わりCDU-CSUとFDPの連立が成立する所が多くを占めつつある。筆者は約三〇年前に日米独自の国際協力研究プロジェクトに参加して以来、ドイツ人とは長い付き合いがある。同じ研究室に数年居た人もいる。原子力機構の施設を利用した国際協力研究に現在もドイツは参加している。人によって様々であるが、概して議論好きで何かと理屈っぽい。しかし、第二次大戦の反省も多少はあるのか、最後は常識的な線に落ち着くことが多い。ここの一年、欧州では英国、イタリアや脱原子力政策のモデルだったスウェーデンまでもが原子力推進に転じている。その中でドイツだけが脱原子力に活路を見出さず

とすのか、現実路線に復帰するのか、本年九月の総選挙を欧州ばかりでなく、世界が目注している。

参考文獻  
 「欧州原子力と国民理解の深層」 福澤義晴  
 杉本純 (日本原子力研究開発機構・原子力研修センター長 / 前ウィーン事務所長)

**日本語定期観光 『みゆう』**  
 毎日催行・現地発ツアー&チケット手配  
 ウィーン市内観光/ウィーンの森半日観光 / 音楽の散歩道/鉄道で行くザルツブルクとザルツカンマーゲート/ホイリゲとコンサートで楽しむウィーンナイト/電車で行くヴァッハ渓谷のんびりツアー/フォルクスオーパーで見るオペラナイト (要予約)  
**MIKI TRAVEL VIENNA 月~金 (9:00-17:30)**  
**TEL: (01)310 2188-18**  
**myu@mikivie.at www.myushop.net**

**My bus 日本語定期観光バス**  
 美しい自然と文化遺産の数々を日本語ガイドが親切に説明致します。  
 完全予約制

- ・ウィーン市内半日観光 毎日 9:00 出発
- ・ウィーンの森半日観光 毎日 14:00 出発
- ・ヴァッハ渓谷1日観光 日火木 9:30 出発
- ・ウィーンナイトツアー 水木金土日 19:15 出発
- ・ウォーキング美術史博物館 火木土 14:15 出発
- ・ハイドン半日ツアー 火木土 14:15 出発
- ・鉄道の旅: ザルツブルク、ザルツカンマーゲート、ザルツブルクコンビ1日、ハルシュタット1日

ご予約日本語 **tel.01-7160947**  
 マイバス・センター Net Travel Service Austria  
 Operngasse 6/2 A-1010 Wien  
 月~金: 09:00-17:30 tel.01-7160947  
 土日祭日: 09:00-17:30 tel.0664-4021882 (マイバスのみ 英語)

**HIS** ウィーン支店  
 航空券・ホテル・コンサートチケット  
**TEL: 01 587-1073**  
 e-mail: vienna@his-austria.at  
 営業時間: 月~金 09:00~17:30 **www.his-austria.at**



杉本純の原子力の話



欧州原子力事情・ドイツ